

# 講義「アルゴリズムとデータ構造」

## 第7回 探索のためのデータ構造(2)

大学院情報科学研究所 情報理工学部門  
情報知識ネットワーク研究室  
喜田拓也

# 今日の内容

木を探索するアルゴリズム(木の巡回)

幅優先探索(breadth-first-search; BFS)

深さ優先探索(depth-first-search; DFS)

行きがけ順(preorder traversal; 前順)

通りがけ順(inorder traversal; 中順)

帰りがけ順(postorder traversal; 後順)

ポイント:

再帰呼び出しによるDFSの実現

スタックによる実現＝DFS, キューによる実現＝BFS

# 木の巡回とは

与えられた根付き木 $T$ のすべての頂点をちょうど一度ずつ訪問(処理)すること

あるいは、木の各頂点がちょうど一度ずつ現れるような、 $T$ の頂点の並びのこと

様々な応用がある！

- 人工知能分野における最適解の探索
- 数式の処理
- 言語解析や意味理解
- HTMLやXMLデータ等の処理

二分探索木にあるすべての要素を小さい順に列挙するとか

# 木の巡回の種類

巡回の考え方:

基本は, 根から出発して下方へ全ての頂点を訪問する

木の探索には大きく分けて2種類ある

- **幅優先探索** (breadth-first-search; **BFS**)

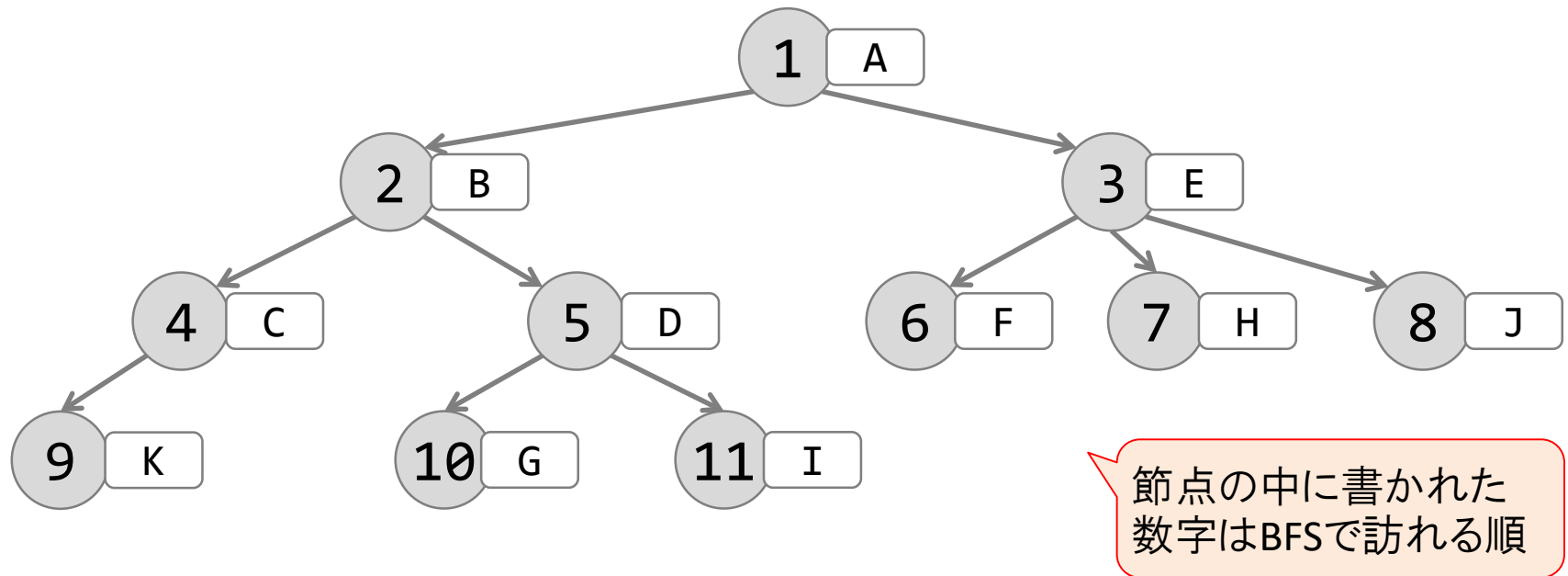
探索の深さ(レベル)  $d = 0, 1, 2, \dots$  を大きくしながら, その深さに属する節点进行处理する

- **深さ優先探索** (depth-first-search; **DFS**)

いま処理している節点から, できるだけ深い方へ処理をすすめていき, 葉に到達したら手前に戻ることを繰り返す

# 幅優先探索(BFS)

BFSは、根から近い順番(深さが浅い順)に木を探索する方法  
探索が解に到達したとき、その経路は**最短**なものとなる



BFSで訪れた順にノードのデータを書き出すと次のようになる

A B E C D F H J K G I

# キューによるBFSの実現

## 【BFSのアルゴリズム】

空のキュー  $S$  を用意する

キュー  $S$  に木  $T$  の根を登録(enqueue)する

キュー  $S$  が空でない間, 以下の処理を繰り返す

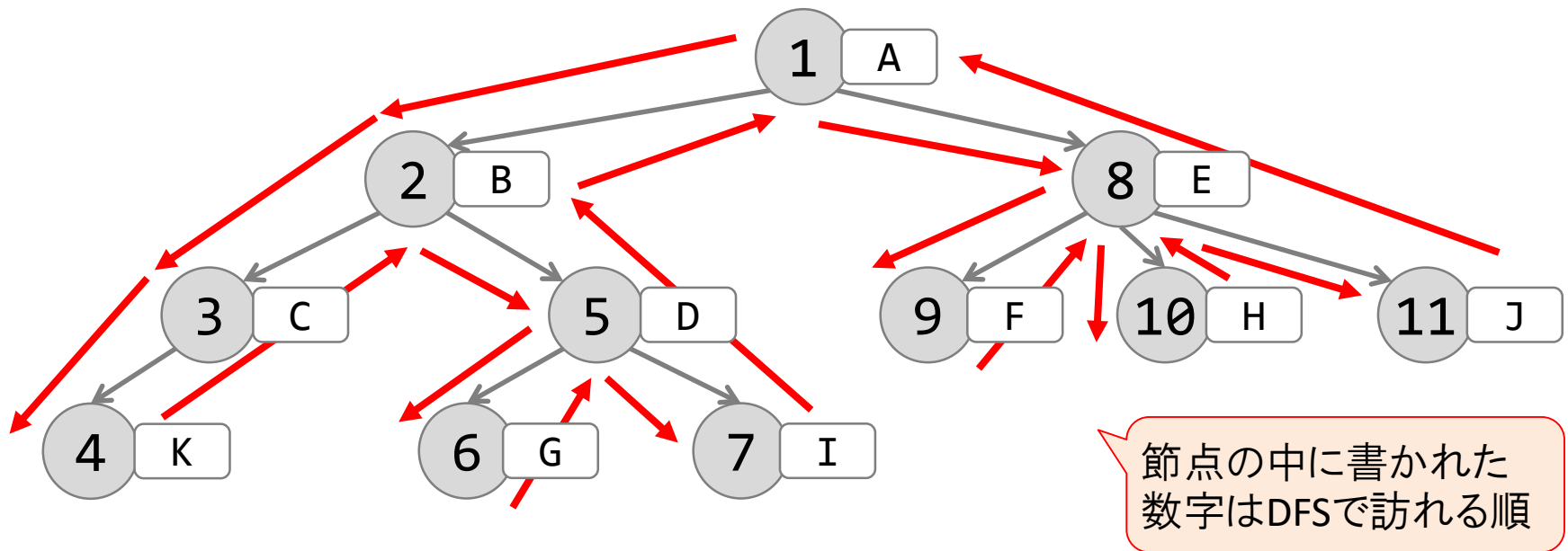
1. キュー  $S$  から要素(節点)  $v$  を取り出す(dequeue)
2. 節点  $v$  を処理(出力)する
3. 節点  $v$  の左の子があればキューに登録する
4. 節点  $v$  の右の子があればキューに登録する

キューは, 入れた順番に取り出されることを思い出そう!

# 深さ優先探索(DFS)

DFSは、根から順に遷移できなくなるまで(葉まで)進み、  
遷移できなくなったら手前(親)に戻ることを繰り返す

バックトラックはDFSを利用した解の探索手法(うまくやると**速い**)



DFSで訪れた順にノードのデータを書き出すと次のようになる

A B C K D G I E F H J

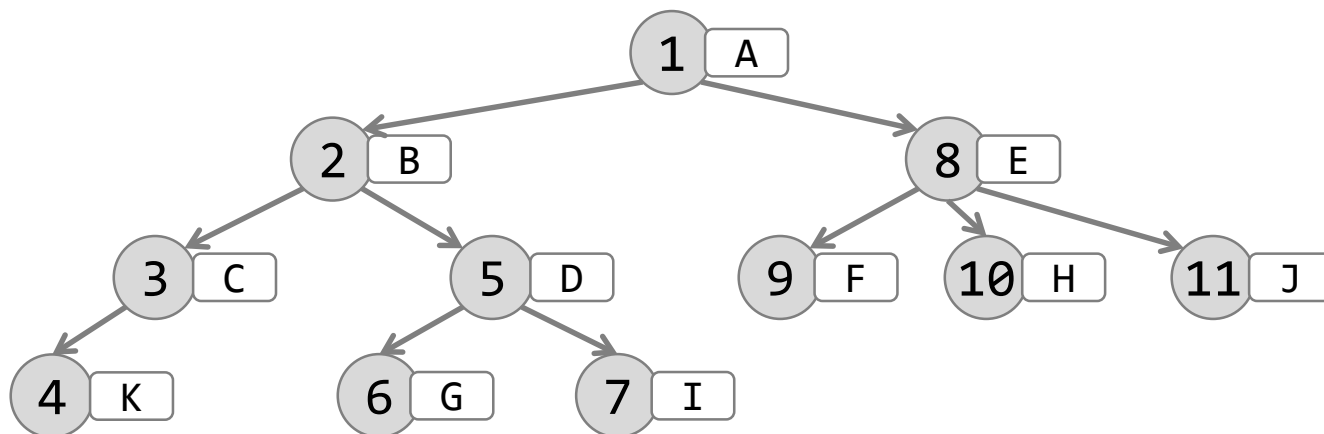
# DFSの際の節点の処理順について

DFSにおいて、巡回の処理順には次の三つの方法がある

行きがけ順（前置順，前順，preorder）

通りがけ順（中置順，中順，inorder）

帰りがけ順（後置順，後順，postorder）



さっきの「訪れた順」(A B C K D G I E F H J)は行きがけ順



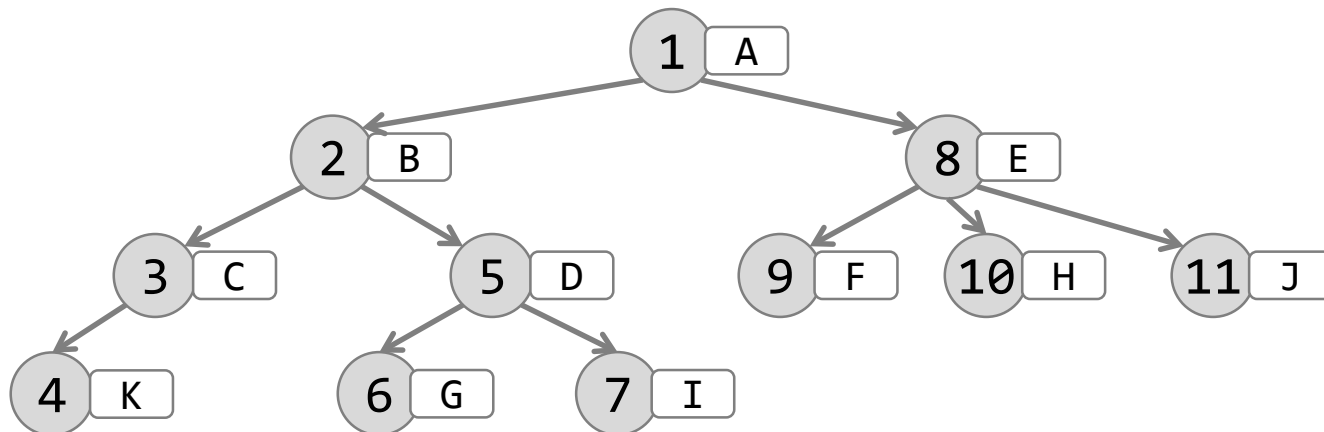
# 行きがけ順(preorder)

各節点  $v$  は, 最初に訪問したときに処理される

内部節点は上から来たときに処理される

葉は訪問したときに処理される

結果として, 木の節点は上から下向きに処理される

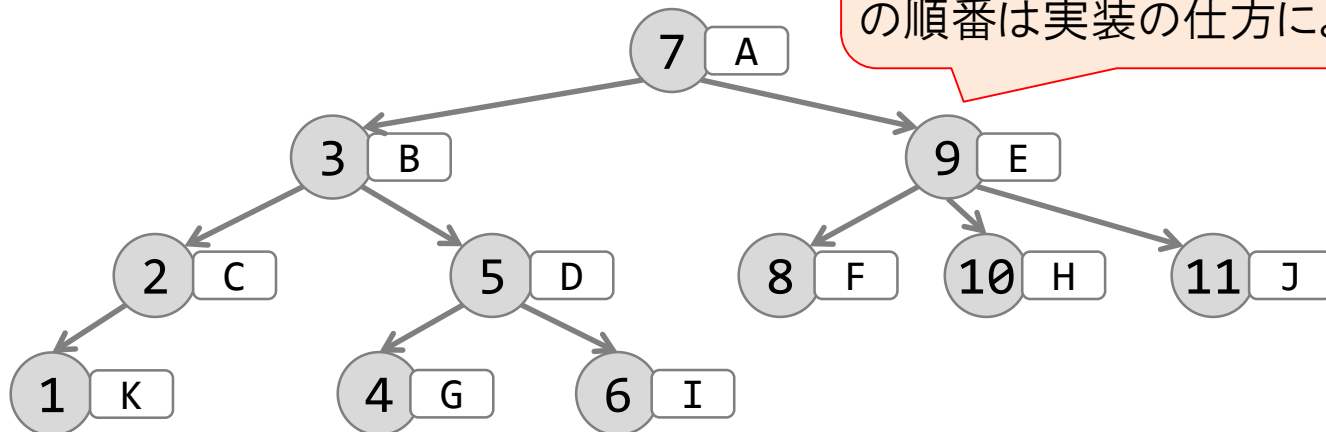


行きがけ順での節点の処理順: A B C K D G I E F H J

# 通りがけ順(inorder)

各頂点  $v$  は, 途中で訪問する時(左から右の子へ移る時)に処理される

結果として, 木の節点は, 左端から右端へ並んだ順で出力される

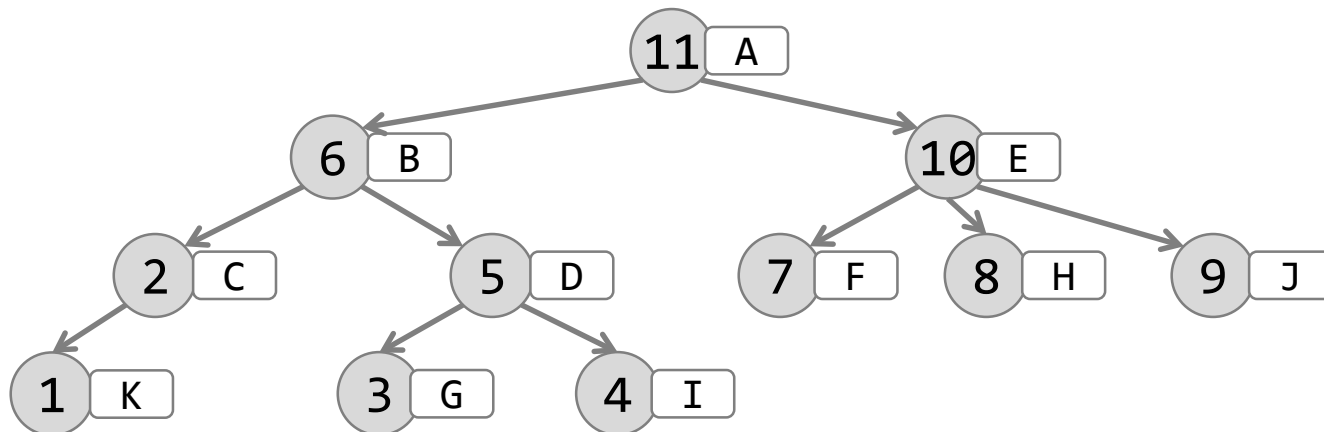


通りがけ順での節点の処理順: K C B G D I A F E H J

# 帰りがけ順(postorder)

各頂点  $v$  は, 最後に訪問する時(下から上へ戻る時)に処理される

結果として, 木の節点は, 下から上向きに処理される  
葉のデータを集約しながら全体のデータを得るときに使う

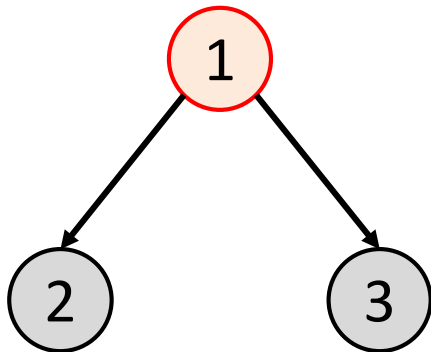


帰りがけ順での節点の処理順: K C G I D B F H J E A

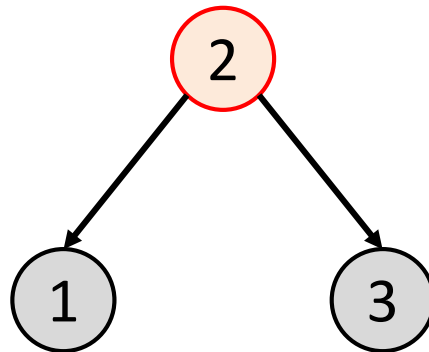


# 先生，憶えるのが大変です...

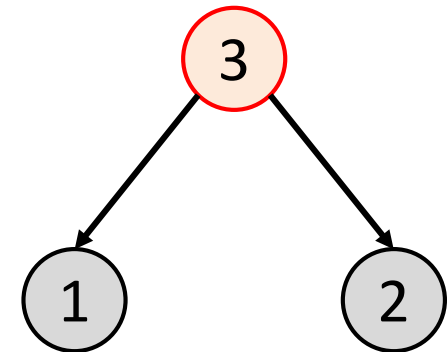
親と二つの子からなる木を考えたとき，  
親の順番に注目すると覚えやすいです



行きがけ順  
(preorder)



通りがけ順  
(inorder)



帰りがけ順  
(postorder)

# スタックによるDFSの実現

【DFSのアルゴリズム(行きがけ順)】

空のスタック  $S$  を用意する

スタック  $S$  に木  $T$  の根を登録(push)する

スタック  $S$  が空でない間, 以下の処理を繰り返す

1. スタック  $S$  から要素(節点)  $v$  を取り出す(pop)
2. 節点  $v$  を処理(出力)する
3. 節点  $v$  の右の子があればスタック  $S$  に登録する
4. 節点  $v$  の左の子があればスタック  $S$  に登録する

スタックは, 最後に入れたものが先に  
取り出されることを思い出そう!

通りがけ順, 帰りがけ順にするにはどうすればいいのでしょうか?

# 再帰処理を用いたDFS(行きがけ順)

```
void preorder(node *v) {  
    if (v == null) return; //再帰の終端条件  
    vを出力する;  
    preorder(v->left); //左の子を処理  
    preorder(v->right); //右の子を処理  
}
```

根からスタート

頂点vに来たら, まず自分自身を出力し,  
次に左と右の部分木を順に処理する

```
void main() {  
    node *root = Tの根へのポインタ;  
    preorder(root);  
}
```

# 再帰処理を用いたDFS(通りがけ順)

```
void preorder(node *v) {  
    if (v == null) return; //再帰の終端条件  
    preorder(v->left); //左の子を処理  
    vを出力する;  
    preorder(v->right); //右の子を処理  
}
```

根からスタート

頂点vに来たら、まず左の部分木を処理し、次に自分自身を出力してから、右の部分木を処理する

```
void main() {  
    node *root = Tの根へのポインタ;  
    preorder(root);  
}
```

# 再帰処理を用いたDFS(帰りがけ順)

```
void preorder(node *v) {  
    if (v == null) return; //再帰の終端条件  
    preorder(v->left); //左の子を処理  
    preorder(v->right); //右の子を処理  
    vを出力する;  
}
```

根からスタート  
頂点vに来たら、まず左と右の部分木を  
処理し、最後に自分自身を出力する

```
void main() {  
    node *root = Tの根へのポインタ;  
    preorder(root);  
}
```

これら三つのアルゴリズムを見て  
何か気づきませんか？





# まとめ

木を探索するアルゴリズム(木の巡回)

幅優先探索(breadth-first-search; **BFS**)

⇒ キューを使って実現できる

深さ優先探索(depth-first-search; **DFS**)

⇒ スタックを使って実現できる

⇒ 再帰呼び出しを使うと簡単に記述できる！

行きがけ順(preorder traversal; 前順)

通りがけ順(inorder traversal; 中順)

帰りがけ順(postorder traversal; 後順)

# おまけ：二分探索木の実装例

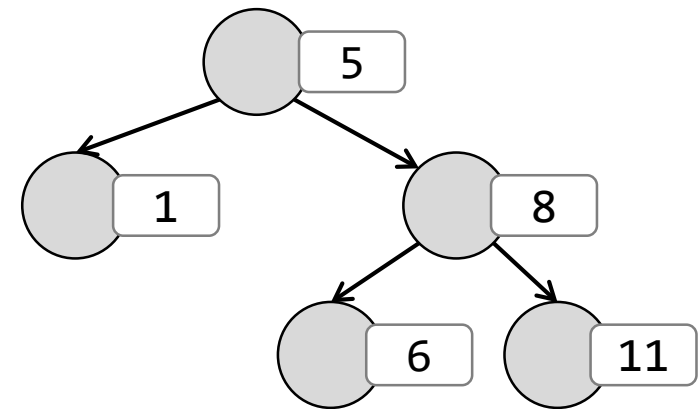
bst.h

```
typedef struct BinarySearchTreeNode {
    int data;
    struct BinarySearchTreeNode *left;
    struct BinarySearchTreeNode *right;
} bst_node;

bst_node *insert(bst_node *root, int data) {
    if(root==NULL) {
        root = (bst_node *)malloc(sizeof(bst_node));
        if(root==NULL) {
            printf("memory allocation error\n");
            exit(EXIT_FAILURE);
        } else {
            root->data = data;
            root->left = root->right = NULL;
        }
    } else {
        if(data < root->data)
            root->left = insert(root->left, data);
        else if (data > root->data)
            root->right = insert(root->right, data);
    }
    return root;
}
```

二分探索木は、データの集合に対して、効率よい検索を提供するデータ構造

各ノードは高々2個の子供を持ち、自身が保持する値は、左の子孫より大きく、右の子孫より小さい



EXIT\_FAILUREは<stdlib.h>で定義されているexit関数の戻り値

# おまけ：二分探索木の実装例(つづき)

bst.h(つづき)

```
bst_node *find(bst_node *root, int data)
{
    if(root==NULL) return NULL;
    else if(data < root->data)
        return find(root->left, data);
    else if(data > root->data)
        return find(root->right, data);
    else // case that root->data == data
        return root;
}
```

```
bst_node *find_min(bst_node *root)
{
    if(root==NULL) return NULL;
    else if(root->left==NULL) return root;
    else return find_min(root->left);
}
```

```
bst_node *find_max(bst_node *root)
{
    if(root==NULL) return NULL;
    else if(root->right==NULL) return root;
    else return find_max(root->right);
}
```

```
void inorder_search(bst_node *root)
{
    if(root) {
        inorder_search(root->left);
        printf("%d\n", root->data);
        inorder_search(root->right);
    }
}
```

**inorder\_search**は、木を深さ優先探索しながら中間順(通りがけ順)でノードを処理する

ここでは、単にノードの値を出力しているが、木に格納した整数のソートを行っているのと同じ結果になる

一番左にあるノードの値が最小値

一番右にあるノードの値が最大値

# おまけ：二分探索木の使用例

test\_bst.c

```
#include <stdio.h>
#include <stdlib.h>
#include "bst.h"

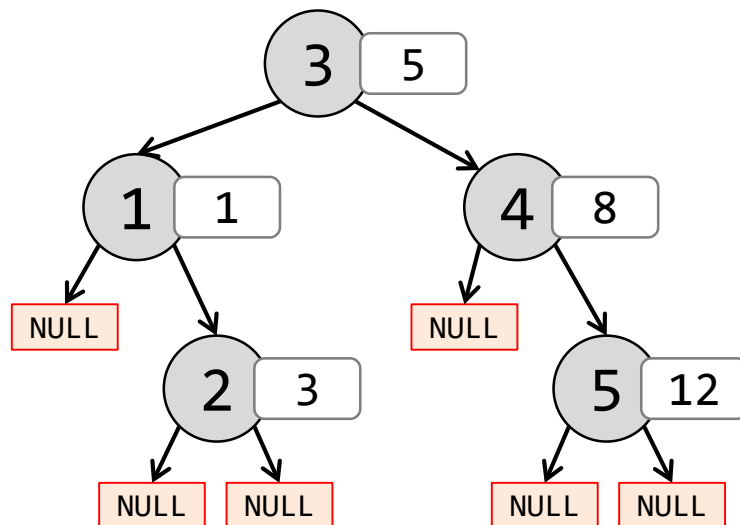
int main(void)
{
    int d = 3;
    bst_node *tmp=NULL;
    bst_node *root=NULL;

    root=insert(root,5);
    root=insert(root,8);
    root=insert(root,1);
    root=insert(root,12);
    root=insert(root,3);
    printf("min=%d\n", find_min(root)->data);
    printf("max=%d\n", find_max(root)->data);
    if((tmp=find(root, d)) != NULL)
        printf("%d was found\n", tmp->data);
    else
        printf("%d was not found\n", d);
    inorder_search(root);
    return 0;
}
```

insertの戻り  
値を必ずroot  
にセットする

実行結果

```
$ ./test_bst
min=1
max=12
3 was found
1
3
5
8
12
```



# プログラミング問題(迷路の最短路)

俺は現在、相棒と共にとあるダンジョン(迷宮)の奥深くに居る。ダンジョンの最奥に隠されていた宝箱を開けた際、運悪く毒針の罠にかかってしまった。解毒するには、地上で待っている仲間のもとまでたどり着く必要があった。

「・・・アスナ・・・すまない・・・」

「しっかりして！大丈夫よ。私このフロアの地図を持っているわ。最短の経路で地上へ出るから！」

ダンジョンは大きさが $N \times M$  ( $N, M < 100$ ) マスの迷路になっている。迷路は通路(.)と壁(#)でできており、現在位置からは隣接する上下左右の4方向の通路へと移動できる。

便宜的に、1マスの移動に1分かかるとする。また、毒が回りきる時間 $T$ (分)が与えられる。スタート(S)からゴール(G)にたどり着くまでの時間が $T$ 分を超える場合は”dead”と表示し、そうでなければゴールまでの最短時間を表示するプログラムを書け。

# 問題の入力例

例1 ( $N = 17, M = 11, T = 60$ )

#	#	S	#	#	#	.	.	.	.	.
.	.	.	.	.	.	.	#	#	#	.
.	#	#	#	#	#	#	.	#	.	.
.	#	.	.	.	.	.	.	#	.	#
.	#	.	#	.	#	#	#	#	.	#
.	.	.	#	.	#	.	.	.	.	.
.	#	.	#	.	#	.	#	#	#	#
.	#	.	.	#	#	.	#	.	.	.
#	#	#	.	.	#	.	.	.	#	.
.	.	.	#	.	#	.	#	.	#	.
.	#	.	#	#	#	.	#	.	#	.
.	#	.	.	.	.	.	#	#	#	#
.	#	.	#	#	#	#	.	.	.	#
.	#	.	.	.	.	#	.	#	.	#
.	#	#	#	#	#	#	.	#	.	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.	#	#
#	#	#	#	#	#	#	#	.	G	#

例2 ( $N = 17, M = 14, T = 60$ )

.	.	.	.	.	.	.	.	#	.	.	.	.	.
.	#	.	#	#	#	.	#	#	.	#	#	#	.
.	#	.	#	.	.	.	.	#	.	#	.	#	.
#	#	.	#	.	.	.	.	#	.	#	.	#	.
.	.	.	#	#	#	#	#	#	.	#	.	#	.
.	#	#	#	.	.	.	.	#	.	#	.	.	.
.	.	.	#	.	S	.	.	#	.	#	.	#	#
#	#	.	#	.	.	.	.	#	.	#	.	.	G
.	.	.	.	.	.	.	.	#	.	#	#	#	#
.	#	.	#	#	#	#	#	#	.	#	.	.	#
.	#	.	.	#	.	.	.	.	.	.	.	.	#
.	#	.	.	#	.	.	.	#	.	#	.	.	#
.	#	.	.	#	#	#	#	#	.	#	#	#	#
.	#	.	.	.	.	.	.	#	.	.	.	.	.
.	#	.	.	.	.	.	.	#	#	#	#	#	.
.	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	#	.
.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.

# プログラミング問題(シミの数を数える)

特に女性にとって、顔にできたシミは非常に疎ましい存在である。お肌のシミが気になり始めた梅子のもとに、とあるセールスマンがやってきた。

「できたシミを、レーザーで治療できるのをご存知ですか？」

「えっ！本当に？」

「ええ。いまならシミの大きさに関わらず、一つあたり1,000円で治療が受けられます。いまだけの特別ご奉仕価格です」

——これで鞠絵のような綺麗な頬になれるかも。でもいったい幾らかかるのかしら——

梅子は美貌の友人を思い浮かべながら、さっそく手鏡に映った頬のシミを数え始めたのであった。

便宜的に、手鏡の大きさは  $N \times M$  ( $N, M \leq 50$ ) で、シミ(S)は8近傍で隣接しているとつながっているとします。この時、シミの数を数えるプログラムを書きなさい。

Sの8近傍とは  
下の\*の部分

*	*	*
*	S	*
*	*	*

# 問題の入力例

例1 ( $N = 8, M = 8$ )

S	S	S	.	.	.	.	.
.	S	.	.	.	S	S	S
.	.	.	.	S	S	S	.
.	.	.	.	.	.	.	.
.	S	.	.	.	.	.	.
S	S	S	.	.	S	.	S
S	S	.	.	.	.	S	.
.	S	.	.	.	S	.	S

Sはシミを表し、ピリオド「.」は  
きれいな肌を表す

例1の場合、シミの数は4

例2 ( $N = 15, M = 12$ )

.	.	.	.	.	.	.	.	S	.	.	.
S	S	S	S	S	.	S	S	S	S	S	.
.	.	.	.	S	.	.	.	S	.	S	.
.	.	S	S	.	.	.	.	S	.	S	.
.	.	S	.	.	.	.	S	.	.	S	.
.	.	.	.	.	.	.	S	.	.	.	.
S	.	S	.	S	.	S	S	S	S	S	.
S	.	S	.	S	.	S	.	S	S	S	S
S	.	S	.	S	.	S	.	S	S	.	.
S	S	.	S	.	.	.	S	.	S	S	S